

成果報告会第 2 部（情報交換会）資料
事前調査書の回答結果より（順不同）

「事業を成功させるために、みんなの意見を聞いてみよう」について	提案団体
<p>多摩丘陵の資源を活かして“ものづくり”をしている団体・個人をご紹介ください。 一緒に多摩市の特産品としたいものです。 21 年度は、「緊急医療」「防犯」「防災」がテーマであった。 22 年度はさらに「介護」「バリアフリー」「医療機関」に拡大するつもりである。また携帯電話端末からも、これらの情報を取り出せる手段を開拓する。 これらは、一連の計画事業であるとの認識から、補助事業を介してユビキタス社会への環境を作っていきたいと考えている。 については、事業を成功させるため、地域の大学、関連市民団体との連携を強めたい。 補助金が終了したあと、事業を継続していくための具体的な方法</p> <p>参考 本補助金以外で、他の補助金の活用方法・申請や情報入手の方法について 事業や団体の P R 方法について</p>	<p>やきもの世代交流会</p> <p>多摩サロン</p> <p>永山地区・置戸町の交流を進める会</p>
その他の項目	提案団体
<p>(1) 上記特産品の「アンテナショップ」ができないものか？ 良い方法は・・・</p> <p>(2) まちづくり補助事業は、市議会での評価が低い。その理由は多分補助金がまちの将来構築の礎石になっていない点にあると考える。それを改善するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年、チャレンジ部門を 2～3 に絞り、補助額を増やす 2. ステップアップ部門は、チャレンジ部門の成果の拡大・蓄積が見込める事業を対象とする。 3. 審査において、評価の客観性を高める。 	<p>(1) やきもの世代交流会</p> <p>(2) 多摩サロン</p>

テーマ 「事業を成功させるために、みんなの意見を聞いてみよう」

自立するための工夫について

- ・補助金終了後も行政は、金銭面以外の支援体制を作ってほしい。
- ・アンテナを張って情報収集し、資金を集める。
- ・私たちの団体は、特別認定NPOの申請をしている。
- ・団体間で情報を共有し、団体間での協働を考える。

資金調達・補助金に関わること

- ・専門家を雇うと費用がかかるので、コストダウンのために本補助金の団体構成員の人員費を認めて欲しい。
- ・この補助金を活用したいと思うが、イベントなどはお金がかかるので、やればやるほど自己負担が増えると思うと手が出せないでいる。
- ・自分たちにある資金の中でできる活動を探ることも大切ではないか。
- ・補助金についての情報について、もっと行政、NPO センターなどで収集できるとよい。
- ・無料で実施していた事業を、参加費を徴収することで対応した。料金を徐々に上げていっても、参加者は減らなかったのが、ホッとした。
- ・文庫連は、20 年度の本補助金を応募し、更に他の補助金も応募していた。結果として他の補助金を通ったので、本補助金は取下げしたが、いろいろな補助金をチャレンジしてみてもどうか。
- ・団体が活動している内容を理解してもらわないと、会費にしても寄付にしても出してもらえない。PR の項目と重複するが、積極的に広報活動していく必要がある。
- ・作家や出版社に作成した資料の売り上げの何%かをもらう。
- ・物品（パペット）の販売
- ・カンパ
- ・インターネットで補助金を交付している企業や財団などを調べて申請する。
- ・障がい者団体だけでなく市内の多様な団体とつながりを持つ。
- ・NPO の法人格を持つと信用度が増す。
- ・法人格を持つことにより申請できる補助金制度もある。
- ・とにかく自分達で動いて、支援者を見つける。
- ・インターネットの書き込み等で PR する。
- ・メセナのリストをつくり協賛金や支援を仰いでいるが、むずかしい。
- ・H.P のバナー広告募集したが、去年の応募は1社のみだった。
- ・他団体と交流を持つことによって、互いの団体に利益が生じる。
- ・企業や商店街の協賛を得ている。
- ・団体代表の講演などをしてみてはどうか

昨年までに実施した意見交換で出された主な意見

人的支援・協力者・仲間づくり、ネットワークづくりに関わること

- ・平成 20 年度、自己資金の負担が大きくて応募を断念したが、同様の活動している仲間(団体)や社会福祉協議会との連携もでき、事業を継続することができた。その間、この補助金で活動が継続できたことに感謝している。

PR に関すること

- ・団体の PR が必要
- ・たま広報については、市民活動専用の欄(枠)があると良い。また、専用の紙面を作成して、広報に差し込む方法なども考えられるが、広告収入など工夫してみると良いのではないか。
- ・市のホームページはもう少し見やすくなると良い。
- ・公式ホームページや検索サイトを活用して事業の PR に活用して欲しい。

様々な分野の団体と交流の機会を持つためにどのようなことをしたら良いか？

- ・同じテーブルで話す場を設ける。
- ・団体間の情報を共有するためにメーリングリストを作成する。

夢たま補助金成果報告会 第2部

2010.7.4

第 班(書記)

事業を成功させるために、みんなの意見を聞いてみよう

その他、自由な意見